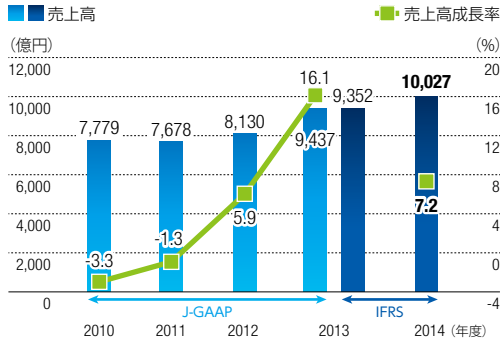


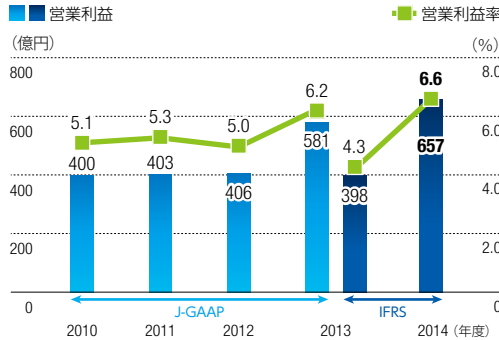
財務・非財務ハイライト

収益性

売上高／売上高成長率

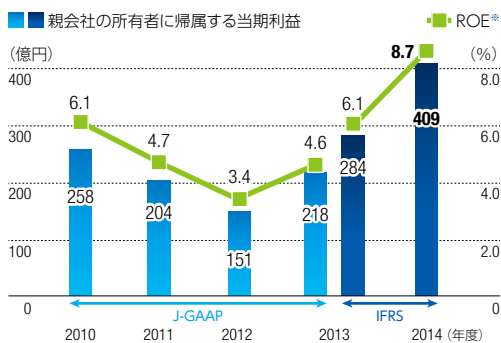


営業利益／営業利益率

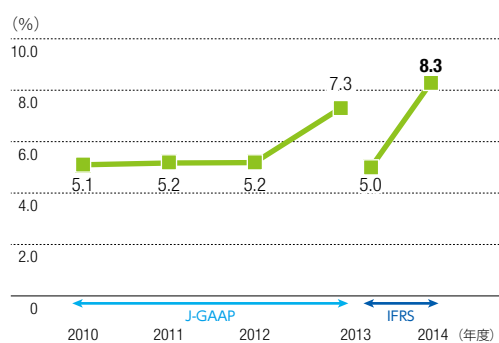


主力の情報機器事業が増収を牽引し、7期ぶりに売上高1兆円を回復しました。また、商業・産業印刷分野の収益改善や産業用材料・機器事業の構造改革効果などにより、大幅な増益となりました。

親会社の所有者に帰属する当期利益／ROE*



ROIC*

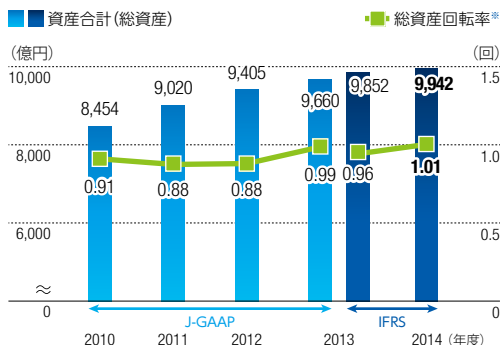


* ROE(J-GAAP)=当期利益(累計)÷自己資本期首期末平均
 ROE(IFRS)=親会社の所有者に帰属する当期利益÷資本金、資本剰余金、利益剰余金、自己株式の合計(期首・期末平均)

* ROIC=税引後営業利益÷(資本金+資本剰余金+利益剰余金+自己株式+有利子負債-現金及び現金同等物(期首・期末平均))

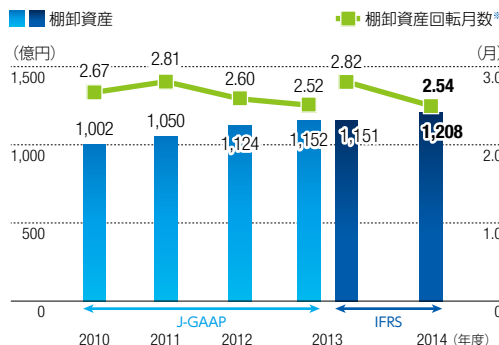
効率性

資産合計(総資産)／総資産回転率*



* 総資産回転率=売上高÷期首期末平均総資産

棚卸資産／棚卸資産回転月数*

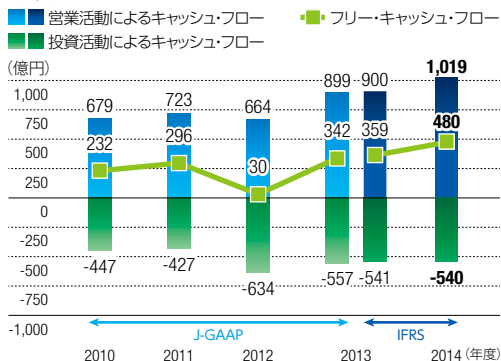


* 棚卸資産回転月数=(当期末棚卸資産残高)÷(直近3カ月の平均売上原価)

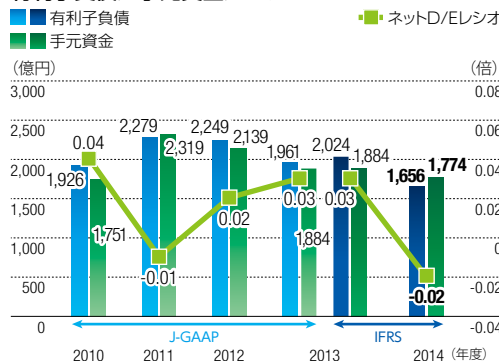
バランスシートマネジメントの観点から、遊休資産売却、在庫圧縮などによる資産効率の改善に取り組み、2014年度は固定資産売却86億円、保有株式売却32億円を実施しました。棚卸資産回転月数は2.54カ月と在庫適正化にも努めました。

健全性

キャッシュ・フロー



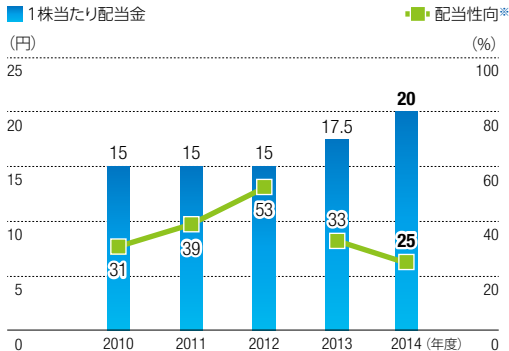
有利子負債／手元資金／ネットD/Eレシオ



クレジット格付けA格の目安となる「自己資本比率50%以上、ネットD/Eレシオ0レベル」に対して、2014年度は自己資本比率53.1%、ネットD/Eレシオ▲0.02となり、債務格付けはR&I→A、JCR→A+を維持しました。

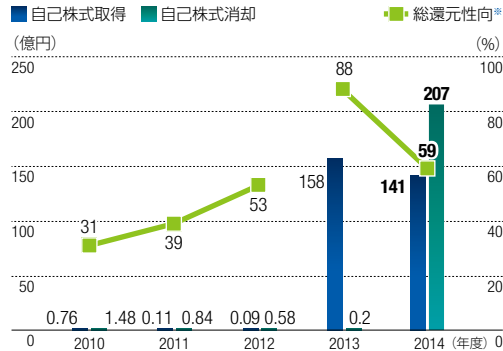
株主還元

配当金/配当性向(%)*



* 2010~2012年度はJ-GAAP、2013~2014年度はIFRS

自己株式の取得・消却/総還元性向(%)*

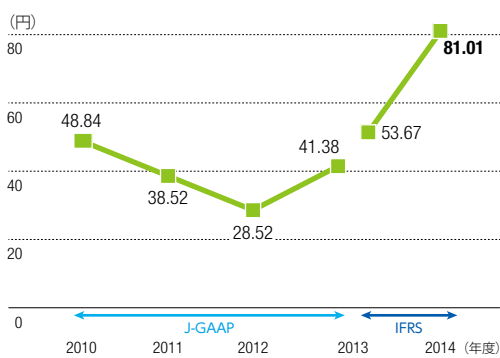


* 2010~2012年度はJ-GAAP、2013~2014年度はIFRS

連結業績や成長分野への戦略投資の推進などを総合的に勘案しつつ、株主還元することを基本とし、2014年度は、年間配当20円、自己株式取得141億円を実施いたしました。

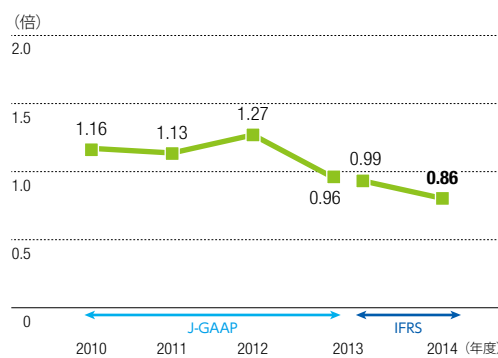
投資指標

EPS*



* EPS=親会社の所有者に帰属する当期利益÷期中平均株式数

PBR*

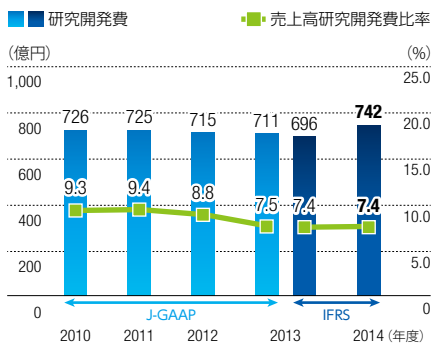


* PBR(J-GAAP)=期末株価÷1株当たりの純資産
PBR(IFRS)= 期末株価÷1株当たり親会社所有者帰属持分

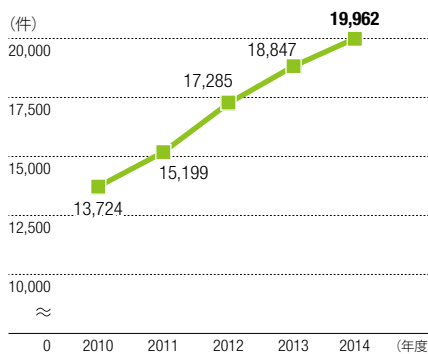
資産売却等による特別損益の大幅な改善などにより、2014年度の1株当たり当期利益(EPS)は81.01円となりました。株価資産倍率(PBR)は0.86にとどまっています。

非財務情報

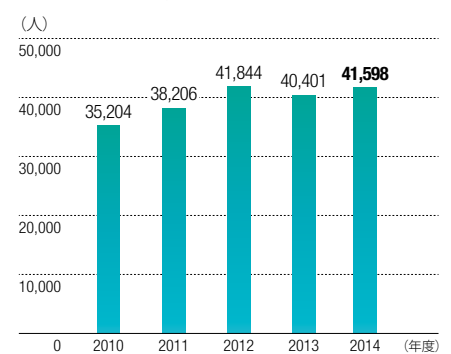
研究開発費/売上高研究開発費比率



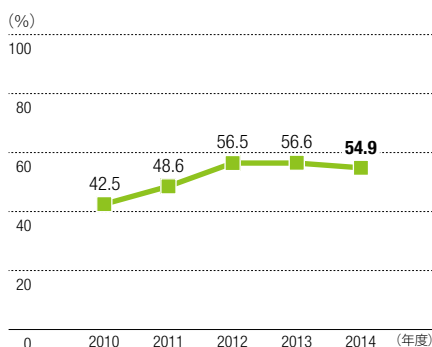
特許保有件数



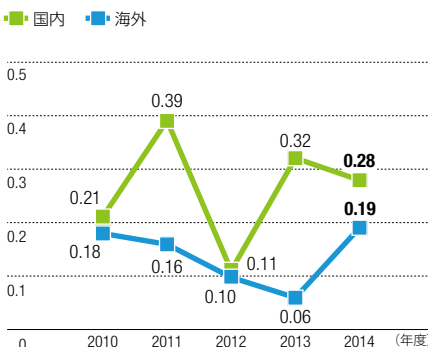
グループ従業員数(全世界)



海外現地採用社長比率



休業災害度率



製品ライフサイクルCO2

